

令和2年度 学校評価書

浜松学院大学附属幼稚園

教育目標 「知恵と力を出し合って生き生きと遊べる子」

1 本年度の重点目標

- ・ 支援を要する子どもへより適切な対応を心がける
- ・ 教育環境の見直し

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

※ 総合評価 B

評価は、A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少しの成果があった）、D（成果がなかった）の数値で表す

自己評価	評価項目	具体的な取り組み	改善策	学校関係者評価委員の意見	評価
B	保育の計画性	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍に対応した保育環境及び内容や、行事運営方法の見直しを行った。・要支援児を含めた各園児の日々の姿を共有するため、日毎に同一紙面に記載する等の工夫をした。	<ul style="list-style-type: none">・従来の保育や行事の進め方を今一度見直し、現在の社会情勢に合わせた方法を考える。・短い時間でも、クラス毎の話し合いができるよう、時間を取る、または、紙面共有する。	<ul style="list-style-type: none">・教育環境を改めて見直し、現在の子どもに合った工夫・改善を行って欲しい。それが、教育の質向上につながる。・個別支援を要する園児について、絵本の読み聞かせなどを通して、その子の個性として他の園児にも知ら	A

				せていって欲しい。	
B	保育の実践力と環境設定・幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、愛情を持ち全員で園児を育てる、という気持ちを持つよう意識した。 ・要支援児について、クラスを超えた情報共有が不足していたと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子に合わせて、その理由を探り、良い方向へ向かうように寄り添う。 ・個別事例検討の方法を再検討し、より実践の場において有効な情報共有を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎内の安全や清潔、特にトイレに関しては、園全体の印象につながる。施設整備については、計画的に進めていくと良い。 ・支援についての講習会は、現場に寄り添ったものも多くある。教員が支援方法を共有できるよう勉強して欲しい。 ・図書室蔵書の種類や冊数が豊富である。絶版になっている良い絵本もあるので大切にしたい。 	A
A	教師の資質・能力・適正	<ul style="list-style-type: none"> ・教員として、園児とのかかわりに責任と喜び、誇りと愛情を持ち、園児の安全第一の考えを持って保育にあたっている。 ・教員としての資質がどうなのか？は、子どもが教えてくれるものだと思う。子どもに恥ずかしくないような振る舞いをしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、教職員で話し合う機会が多かった。それぞれの意見を尊重しながら、より子どもにとって良い方向を目指す。 ・クラス毎に短時間でも教員の話し合いを持つよう心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、一生懸命保育に取り組んでいる様子が見え、うかがうことができる。 	A

B	<p>保護者への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの相談は、その内容によってより伝わりやすい対応を心がけている。 ・様々な相談について保護者の理解を得るまで、解決に向かうように努力している。 ・「教員が忙しそうで、声をかけにくい」という意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信はわかりやすい内容になるよう意識して書く。 ・子どもの姿について、基本的には良い表れを保護者に伝える。課題等を伝える必要がある時の伝え方について、保護者の気持ちを受けとめながら、真摯に向き合う。 ・教員から保護者に、まず挨拶から声を掛けて、保護者から話を切り出すきっかけづくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手書きの通信、個人のおたより帳など、子ども達の姿が良く分かる。教員が子どもをよく見ていてくれることを感じる。 	A
C	<p>地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、近距離の地域イベントや施設を利用した。より身近な地域資源を見直すことができた。 ・要支援児について、関係療育機関と情報共有会を開催し、より適切な支援の方法について話し合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年及び園全体で、より地域社会の資源や自然を意識していくことが必要である。地域に根差した付属幼稚園としての役割を確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教科書の内容も参考に、幼稚園で読み聞かせる絵本を選択して欲しい。それが小学校との連携につながる。 	B
B	<p>研修への参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員の力に合わせて必要な研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員の経験や課題を踏まえ 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修などを通して、「非認知能 	A

		<p>を選択し参加したが、コロナ禍で中止になった研修も多くあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインやリモート研修が増えた。移動時間などを考えると、参加し易くなった反面、質問に躊躇してしまうこともあった。 	<p>て参加する研修を選択する。教員自ら自主的に研修に参加したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加する際には、事前に資料を確認し、自覚を持って参加する。 	<p>力」や「幼児期に育ってほしい 10 の姿」について理解し、子どもが主体的に遊べる環境設定ができるようになる」と良い。</p>	
B	外部アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の教職員の努力を、保護者が評価してくださっていることに感謝し、今後もより一層、努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目別選択回答の「あまりあてはまらない」「いいえ」の少数回答に潜在する本音があることを自覚する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果や自由記述から、保護者の信頼を得ていることが分かる。日々の丁寧な取り組みが伝わっていることが分かる。 	A

保護者アンケート総合結果 回収率97% 回答数282

■ はい ■ 大体あてはまる ■ あまりあてはまらない ■ いいえ

